

<b>奈良市</b>  <b>手をつなぐ親の会だより</b>	NO 355	平成29年10月13日(金)
	発行	奈良市手をつなぐ親の会
	会長	小西 英玄
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内
	Tel0742-71-0770	<a href="http://naraoyanokai.info/">http://naraoyanokai.info/</a>

## 手足の指6本の奇形で生まれた赤ちゃん 「人口呼吸器からはずして」と父親が…



私（小児外科医 松永正訓氏）が赤ちゃんの命の尊さについて深く考えるようになったきっかけは、医師になってすぐの頃に起きた出来事がありました。

関東地方の田舎で双子の赤ちゃんが生まれました。第1子は死産でした。第2子は生まれてきましたが、腹壁破裂と言う先天性の奇形がありました。おへその脇に穴が開いていて、そこからすべての小腸が体外に飛び出していたのです。救急車で深夜、私が勤めていた大学病院の小児外科に搬送、手術は無事終了し、赤ちゃんを人工呼吸器のついた状態で病室に連れて帰りました。

### 対面した家族から小さな悲鳴、やがて沈黙…

家族控え室には、赤ちゃんの父親と両親の祖父母が集まっていました。私たちは赤ちゃんの様子を口頭で伝え、それから面会をしてもらうことにしました。ただ、ちょっと心配がありました。赤ちゃんの奇形はお腹だけではなかったのです。両手両足の指が6本ずつあったのです。とは言え、この奇形は整形外科の先生に手術してもらえば綺麗になります。命には関係ありませんと家族に念を押ししました。

家族に病室に入ってもらいました。すると誰も赤ちゃんの顔やお腹をみません。両足両手を入念に見ています。深夜の病棟に小さな悲鳴のような声があがります。病室は騒然となり、やがて誰もが黙りこくってしまいました。

### 「今、呼吸器から外すと命はない」と声を上げる教授、父親の答えは…

手術から2日たった日の午後、父親が小児科外来診察に姿を現しました。教授の診察が終わるのを待っていたのです。父親は頭を深々と下げて、赤ちゃんを今すぐ人工呼吸器からはずして自宅に連れて帰りたいと言います。教授は目を丸くして「今、呼吸器から外したら赤ちゃんの命はないよ」と大きな声を上げました。父親の答えはこうでした。「赤ん坊を、上の子と同じ穴の中に埋めてやりたいんです」

赤ちゃんの命は赤ちゃんのものであり、親が勝手なことをしてはいけないと懸命に説得しました。父親は「先生には分からないよ。田舎でこういう子を育てるのが、どんなに大変なことか」と悲しそうにうなだれて、廊下を去っていきました。

### 母の涙が一滴、赤ちゃんの頬に…これが転機に

私は、母親が赤ちゃんに初めて面会する時まで何としても赤ちゃんの状態を良くしようと病院に泊まりこみ、徹夜の術後管理を続け、術後6日めで呼吸器を外すことができました。そして、7日目に母親が病棟にやってきました。

赤ちゃん用のベッドの上で、手足をバタバタさせている我が子を見て、母親は顔を紅潮させました。私は母親に赤ちゃんを抱っこさせました。まだ酸素が必要だったので、私は酸素チューブを赤ちゃんの口元にあてがいました。涙が一滴、赤ちゃんの頬に落ちました。

これが転機になり、家族は一人また一人と赤ちゃんを受け入れました。もちろん父親も。私は障がいをもってうまれてきた赤ちゃんを受け入れるのは、単純ではないことを思いしらされました。

この様な記事をネットで見つけました。多くの方に読んでもらってください。